



平成27年9月15日

当別町長 宮司 正毅 様

特定非営利活動法人ゆめの種子トープ  
理事長 堀 江 三 千 代



まち・ひと・しごと創生法に基づく総合戦略策定に対する要望書

私たち特定非営利活動法人ゆめの種子トープは、当別町における社会教育活動に貢献する法人として本年5月に発足しました。

さて現在、当別町では、まち・ひと・しごと創生法の規定に基づいて当別町の実情に応じた「まち・ひと・しごと創生」に関する総合戦略の策定を行うために検討委員会を設置し検討を開始していることは、会議の傍聴やホームページで公開されている情報において承知しているところです。

当法人では、作成されようとしている「当別町まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、下記の事項について具体的に議論され計画に盛り込まれるよう要望します。

記

1. 「文化を誇れる都市の形成」について

当別町には近隣市町村にはないユニークな開拓の歴史や豊かな自然環境が備わっています。しかしながら町民は、それらを学ぶ〈場〉や〈機会〉に恵まれていない現状があります。とくに当別の未来を考えると、先人達が築き上げた歴史に学ぶことが大切です。

〈学ぶ〉環境を保障する場は学校だけではありません。この町の住民として暮らし続ける、また、新たに定住の地としてこの町を選択するにあたり、〈ひとづくり・まちづくり〉の拠点として公共図書館をはじめとする文化的(知的)インフラの整備は必須であると考えます。こういった生涯学習環境の整備を行うことは、ひろく子どもからお年寄りまでが安心して暮らすことを保障することにつながります。

以上のような視点は今回示された「総合戦略」のたたき台にも素案にも示されていません。新たに基本目標とする、又はすでにある基本目標のしかるべき柱にこういった内容を加えるよう要望します。

2. 「総合戦略」に対する町民の意見について

人口減少問題や定住環境整備への取り組みは、行政のみならず町民ひとり一人の課題です。今後5年先の当別町の施策の基本的な方向性に大きな影響を及ぼす「総合戦略」策定に当たって、住民の多様な意見を反映させることが極めて重要であると考えます。

関係団体等から意見を聴取するだけでは不十分であり、パブリックコメントは欠かせません。パブリックコメントを実施することで、ひろく住民の意見を聞く機会とするよう要望します。

